

## “きびの会に寄せて”

きびの会のお手伝いをさせて頂くようになって、1年が経過した。

焼きそば作り、こんにゃく作りが初めての参加、そして初めての体験と記憶している。

会長をはじめ、会員の皆さんが、私を上手に使ってくださるので楽しい一時を過ごせてもらい感謝している。ところが、この度はこの投稿をと。文才がない私には「厳しいなあ」である。

何を書けばいいのか分からないが、今思うことを気ままに書いてみたい。

最近「倫理」という言葉にぶつかった。国語辞典を引くと「人倫のみち。道德」とある。そして「人倫」とは人間の秩序関係。転じて、人間の実践すべき道義とある。

近頃の官僚や国会議員たちの言動をみて、この「倫理」という言葉にぶつかったのである。彼らは難しく、良く分からない熟語を口にするが、本当に彼ら自身が理解したうえで口に出しているのだろうか？ 「有言実行」という言葉があるが、口にした以上、実行すればと思うことが多々あるように思う。好き勝手にやっているのかと情けなくもなる。

彼らが真のボランティアに携われればあのような行為は出来なくなるのではとも考える。「ボランティア」は、自分から進んで社会事業などに奉仕する人、とある。私は元公務員である。公務員は「全体の奉仕者である」と憲法に謳われている。彼らは、一般公務員ではないが公務員である。

人は精神的な弱さがある。人である以上仕方がないと考えるが、本当に国民のために働く意思を持ち合わせているのであれば、今一度原点に戻り公務員であることを考えて頂きたい。

彼らより真のボランティアに携わっていらっしゃる会の皆さんの方が、本当に強い精神力を持ち合わせられていると私はいつも思う。

道德の授業が復活したと聞くが、真の「倫理」を子供たちに教える教育の現場をしっかりと構築してもらいたいものだ。そうすれば、心豊かなボランティア人口が増えると思う。

乱文失礼。(中川)

第13回ととろサロン「そうめん流し」が8月25日(土)開催されました。会員と会員の家族友人約20人が夏の風物詩を楽しみました。



この日は、うだるような暑さではないものの、夏日そのものの一日でした。準備は朝9時過ぎから始まり、智和さんや滝山さんが中心になり男子参加者全員で作業。孟宗竹を縦割りにし、節を取り除いた半筒形の約10メートルにサランラップを巻いた「とい」(水路)を作り日よけ(雨よけ)の簡易テントを設営して、ハード部門は用意万端整いました。

一方、女性陣は手延べ麺40束2キロをゆで上げるまでに、赤飯むすび、黄な粉団子やから揚げ、鶏の串焼き、夏野菜たっぷりのサラダなどの総菜十数品を11時には作り上げる手際よさ。テーブルに所せましと並べられると色とりどりのおかずに歓声が沸いたほどでした。

いよいよソーメン流しのスタート。ソーメンのつけ汁には錦糸卵、刻みのり、ネギ、ミョウガ、シソなどの薬味も用意され、見るからに美味感満載。

参加者は早速、汁椀と箸を持ってトイに沿って並びを流れるソーメンを箸で器用につかんですすっていた。子どもたちは「冷たくておいしい。おなかいっぱいになった」と笑顔。会員が用意したかき揚げなどのおかずと一緒に夏の味を堪能していました。

楽しい夏の風物詩のひと時を過ごすことができました。流しそうめんは清涼感を得ながら大人から子供まで老若男女問わず楽しめる夏にうってつけのイベントです。

皆様のご協力により、今後もととろサロンの夏の定番行事としていきたいものです。お疲れさま、そしてありがとうございました。